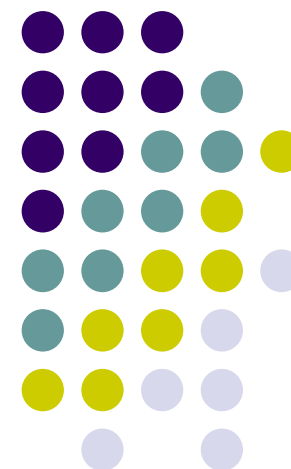


平成25年度下期落札結果と分析

【第4回PETボトル入札制度検討会】

平成25年8月30日(金)

(公財)日本容器包装リサイクル協会





平成25年度下期PETボトル落札結果 (速報版)

1. 落札単価 (円/トン)

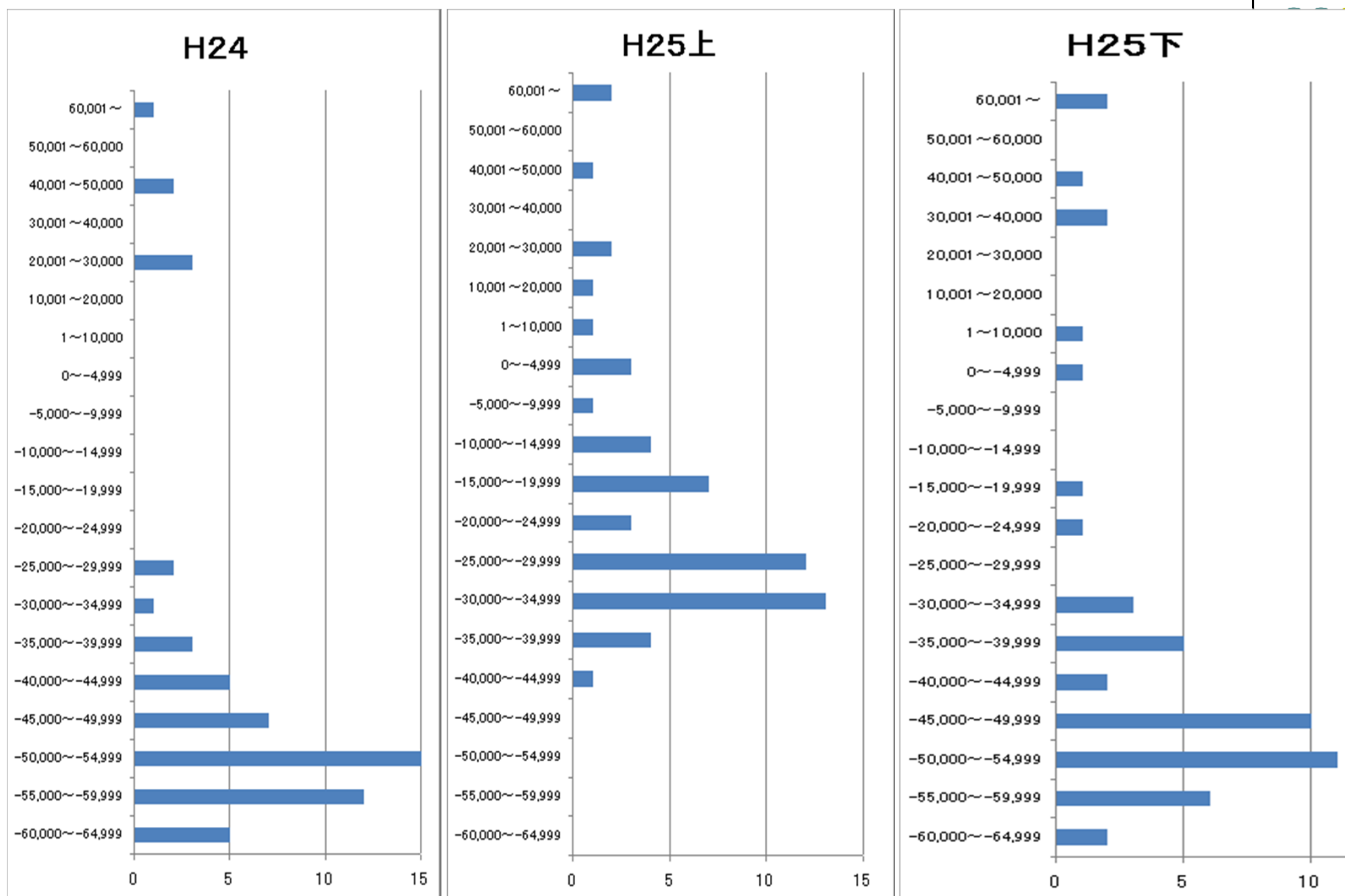
	平成25年度 下期	平成25年度 上期	平成25年度 通期 ①	平成24年度 ②	差異 (①-②)
合計	-48,256	-21,278	-33,335	-48,890	15,555
有償分	-49,428	-27,470	-37,787	-50,532	12,745
逆有償分	62,514	35,884	38,004	50,983	-12,979

2. 落札数量 (トン)

	平成25年度 下期	平成25年度 上期	平成25年度		平成24年度
			通期	構成比	
合計	89,958	111,325	201,283	100.00%	197,797
有償分	89,017	100,443	189,460	94.10%	194,598
逆有償分	941	10,882	11,823	5.90%	3,199

* 平成25年度下期PETボトル入札においては、平成25年度市町村申込量201,283トンの約45%に相当する89,958トンを対象としました。

事業者別平均落札価格帯の分布 (社数)



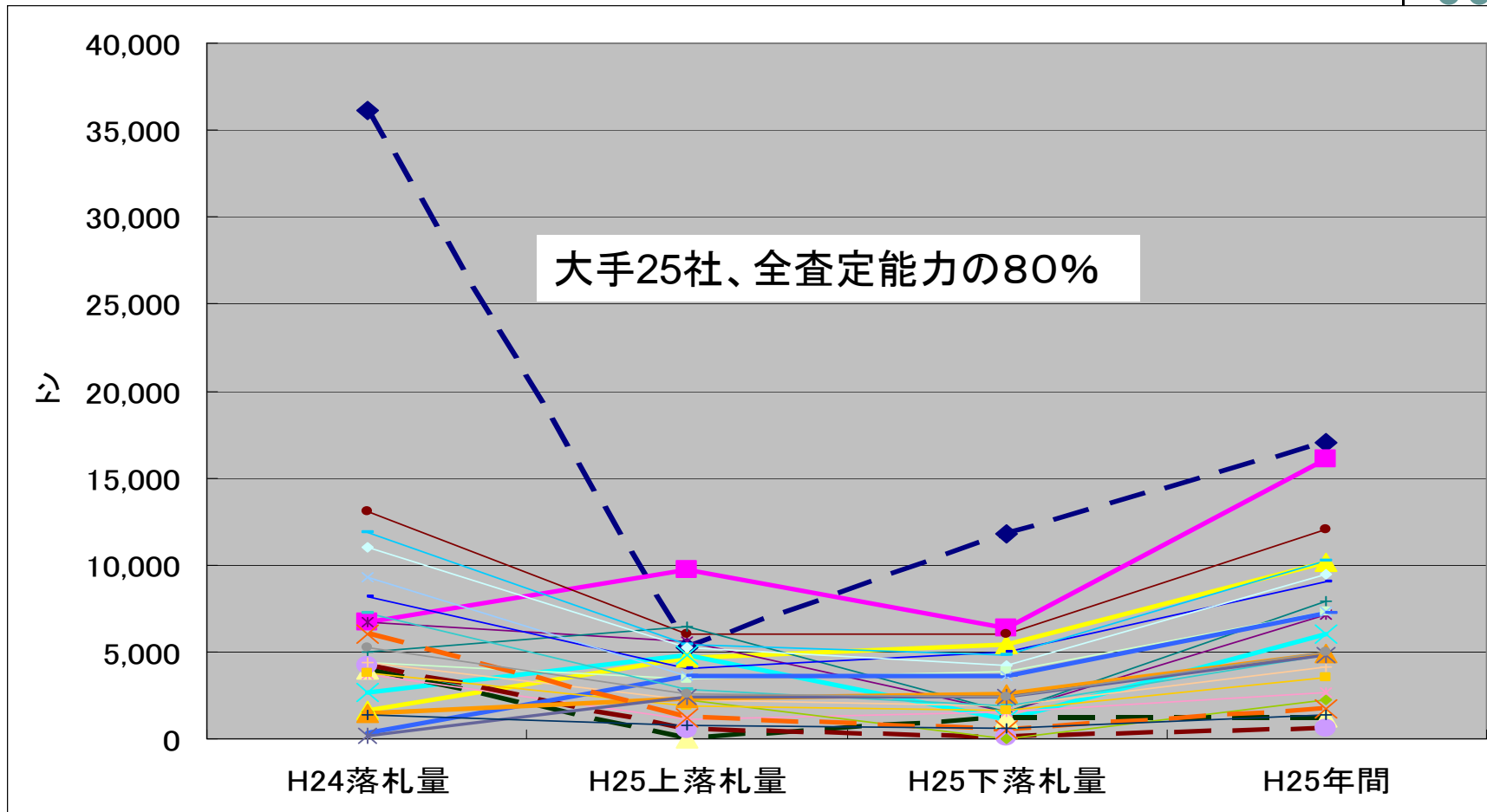
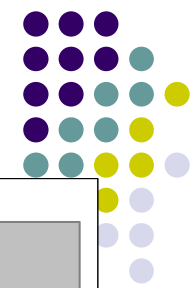
再生処理事業者の置換状況

(全保管施設に占める比率)



年 度	平均落札単価 (円/トン)	事業者変更となつた比率
平成25年度(下期)	-48,256	
平成25年度(上期)	-21,278	77%
平成24年度(期初)	-48,890	58%
平成23年度	-47,838	56%
平成22年度	-21,973	58%

再生処理事業者の落札状況推移



〔 25社 落札量 〕	合計160,063	87,959	75,988	163,948
	比率 80.9%	79.0%	84.5%	81.5%

(公財)日本容器包装リサイクル協会

再生処理事業者の落札状況推移

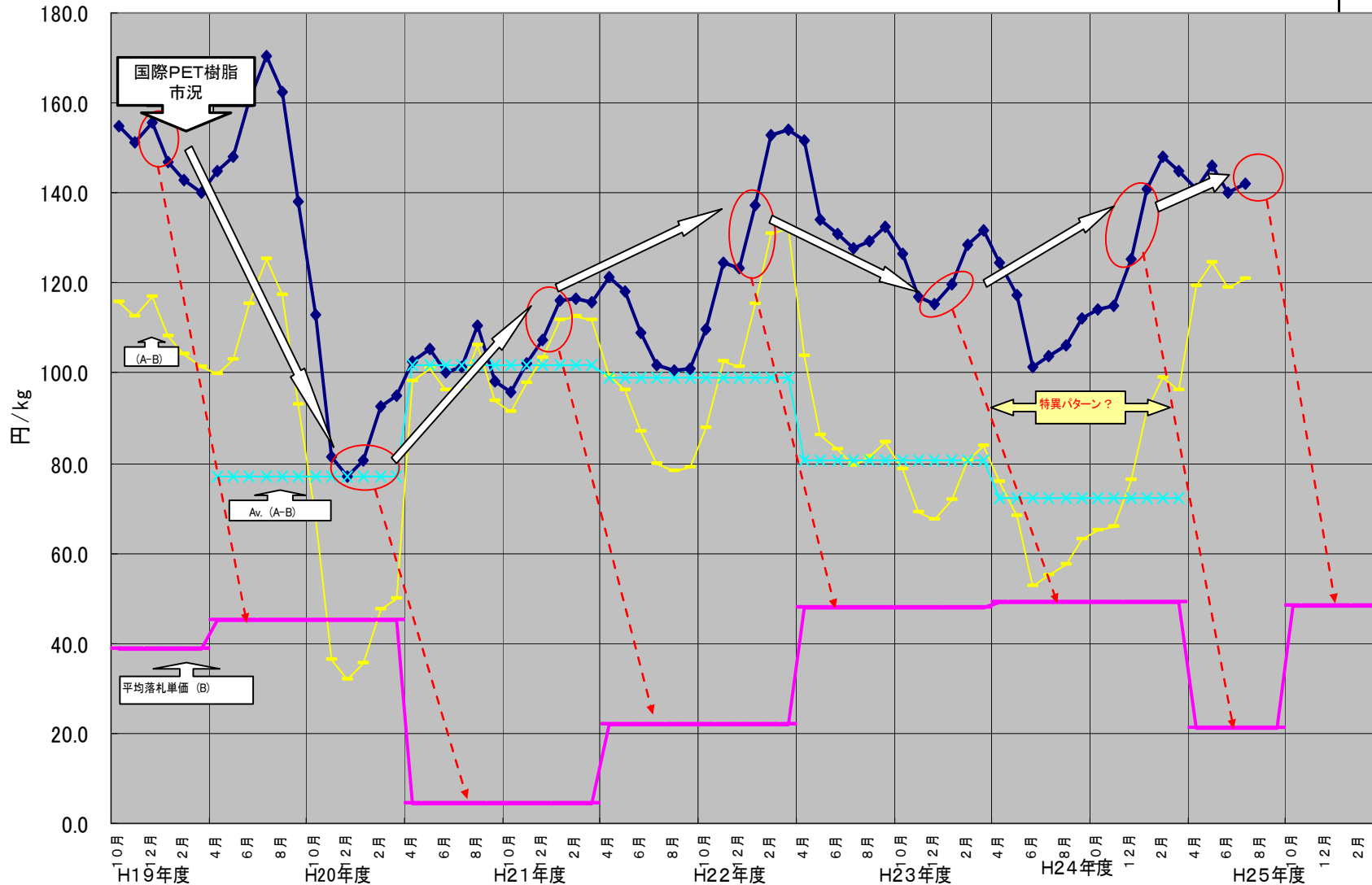


- 年間査定能力5,000トン以上の大手25社で、全事業者の80%の能力を有する。
- 大手25社の落札量比率は、平成24年度(80.9%)、25年度上期(79.0%)、下期(84.5%)、通年(81.5%)で、平成25年下期は大手の比率が上期に比べ5.5%増えている。
- 平成24年度は、最大手の事業者の落札量が際立っている。
- 一方、非落札事業者は平成24年度(7社)、25年度上期(6社)、下期(12社)であった。

国際PET樹脂市況と平均落札単価推移の状況



(図1) 国際PET樹脂市況 と平均落札単価推移



国際PET樹脂市況と平均落札単価推移の状況

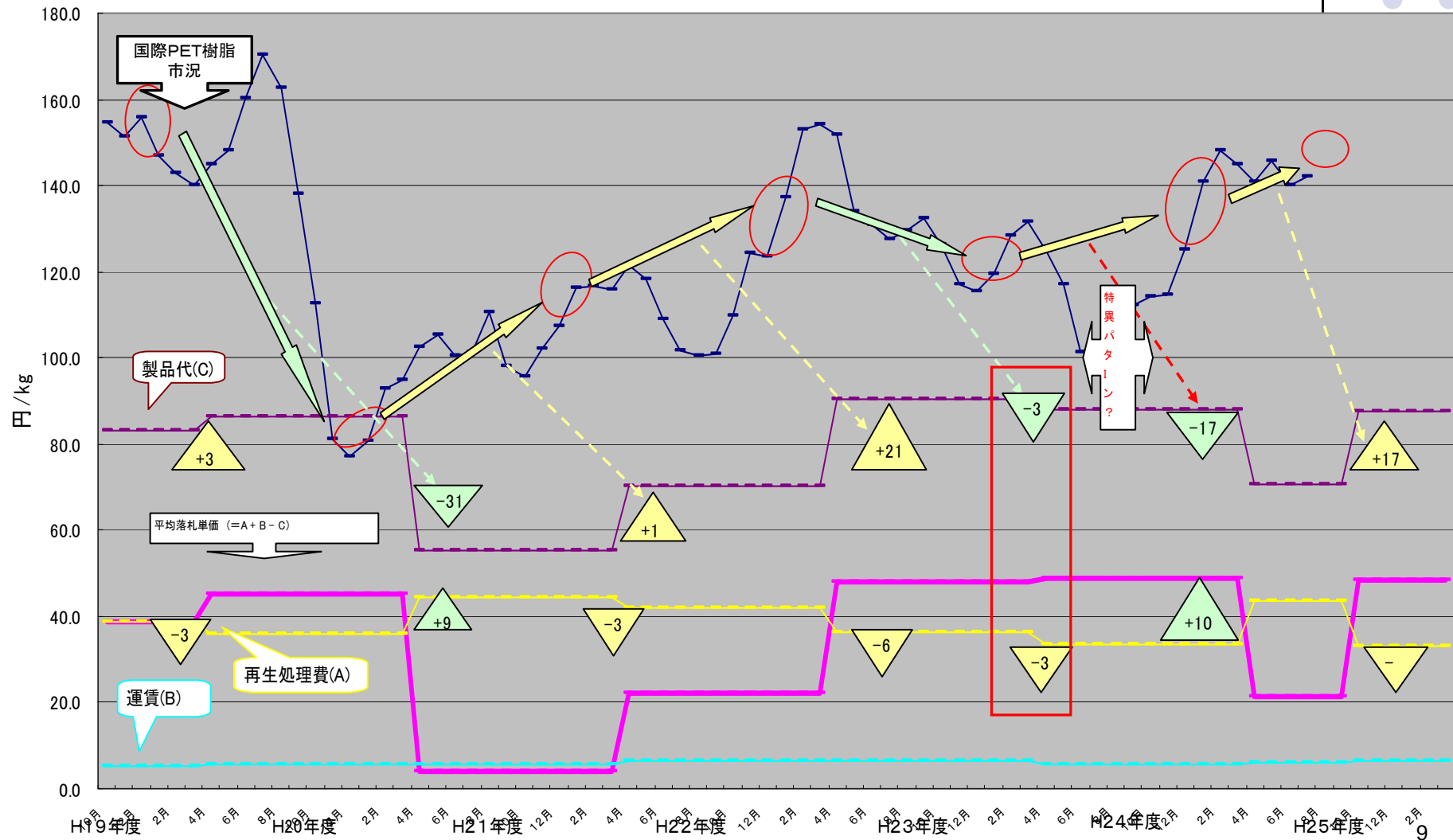


- 平成21年度から平成23年度までは、前年度入札時からの国際PET樹脂市況の動向と落札単価の動向が一致している。また、平成25年度下期においても同様である。
- 平成24年度は前年度入札時期から国際PET樹脂市況が下落しているにも関わらず、落札単価が若干だが上昇した。(ほぼ横ばい)
- 平成25年度上期は、前年度入札時期から国際PET樹脂市況が上昇したにも関わらず、落札単価が大幅に下落した。

入札時構成要素と国際PET樹脂市況の状況



(図2) 入札時単価構成と国際PET樹脂市況



入札時構成要素と国際PET樹脂市況の状況



- 入札時に再生処理事業者は、再生処理費(A)、運賃(B)、製品代(C)を入力し、 $(A+B-C)$ が入札単価となる。
- この製品代は、引取同意書の販売価格と大きく異なることはないと考えられ、国際PET樹脂市況の動向を非常に良く反映している。
- また、落札単価が上昇した年度は、この製品代も上昇しているのと同時に、再生処理費が下がっており、結果としての落札単価を調整していると考えられる。

入札時構成要素と国際PET樹脂市況の状況



- この傾向からすると、平成24年度には前年度からの国際PET樹脂市況の下落を受けて製品代が若干でも下がっているが、再生処理費もほぼ同額下がっており、落札単価がほぼ横ばいの原因となっている。
- 平成25年度上期は、逆に国際PET樹脂市況が前年度から上昇しているにも関わらず、大幅に製品代が下り、同時に再生処理費も大幅に上昇している。
- 平成25年度下期は、前期から国際PET樹脂市況の上昇と製品代の上昇が一致し、再生処理費も戻っている。



分析結果からの考察(案)

- 平成24年度と平成25年度上期を除けば、国際PET樹脂市況と落札単価には一定の法則があり、これまでの落札単価自体が市況を反映しているのではないか。
- 平成25年度に暫定的に実施した年2回入札でも、市況の動きと異なる入札結果とはならず、むしろ平成23年度までの通常の入札行動に回帰したと考えられないか。



分析結果からの考察(案)

- 平成24年度期初の入札では、平成23年度期中に国際PET樹脂市況が大幅に下落したために、入札単価を低く抑えた事業者がいた一方、入札時期直近では国際PET樹脂市況が上昇していたために、市況回復を期待して高めの単価で入札した事業者双方が存在したため、構成要素である製品代と再生処理費がそれまでと異なる動きになるなど、結果として平均落札単価が前年比横ばいとなったのではないかと考えられる。



分析結果からの考察(案)

- 平成25年度上期は、平成24年度期中の市況悪化から低下した再商品化製品の取引価格が、国際PET樹脂市況が回復するも直ぐに値上げ交渉が成立する保証もないため、再生処理事業者が安全サイドに立って入札を行ったので、市況の動向とは異なった結果となったと考えられないか。
- これらの事から、1年間を通して市況を予測することは困難でも、半年間であればある程度その困難さの解消が期待できるのではないか。